

2022年度 事業報告

施設名 ガーデンエル

施設長名 六川徳子

種別	乳児院		
設立	2010年	4月	1日
認可	2010年	4月	1日

*2022年度事業計画に対する評価

- ・コロナ禍での特例措置により、暫定29名となった。入所依頼に可能な限り対応したが、乳児の依頼が多く、乳児ホームの定員もあり、十分に應えることが出来なかった。月の平均在籍数は23名、充足率は76.7%だった。
- ・一歳以上の一時保護ホームを設定したことで、措置ホームの児童は比較的落ち着いて過ごすことが出来た。ただ、一時保護ホームと同じユニットの措置ホームの児童は、一時保護児の入退所による影響があった。アセスメントや、入退所の対応など一時保護ホームの在り方も含めて、課題が整理できた。
- ・入所から退所まで、可能な限り担当職員とホーム移動したことで、良好な愛着関係が築けている。
- ・コロナ禍により、戸外に出ての社会経験を積む機会が減っていたが、感染が比較的落ち着いている時期にホーム外出や、商店街や大きな公園への外出を実施することが出来た。
- ・危機管理委員会を中心として、自然災害への備えを行ってきた。また、警察署や消防署の協力を得て、防犯教室や避難訓練を実施できた。
- ・スーパーバイズについて、月1回の実施が難しいペアもあり、時間の確保が課題となった。また、OJTの体制を十分に整えることが出来ず、引き続き整備が必要である。
- ・毎月の職員会議で聖書の言葉を聞き、MS2009への理解を深めながら、実践につなげることができた。
- ・里親支援機関B型として、新規里親開拓のための広報活動、地域の里親会やMY里親への支援をロイと共に協力して実施している。養子縁組里親2家庭が新規登録され、MY里親となった。また登録に向けて、1家庭の調査を行っている。里親支援専門相談員を中心に、順調に活動の範囲を広げている。
- ・昨年度に引き続き、看護師を中心に、エルロイで感染症予防対策と流行時の対応を整理して周知した。コロナ陽性者が出た時に、ゾーニングを行い、防護服等を着用し、消毒を徹底した。しかし、子どもだけでなく、職員にも感染が広がった。ロイからの職員応援を受けて事業を継続することが出来た。
- ・建物の点検を行い、大規模修繕計画をロイと共に立案した。また、火災報知器の誤作動が続いたため、すべての火災報知器を入れ替えた。必要に応じて室内の修繕もおこなった。

1. 事業運営の概況

認可定員	ひよこ	たんぼぼ	ちゅうりっぷ	ひまわり	さくら
30名	6	6	6	6	6

2. 保育実績

① 在籍児数（各月1日在籍数：措置児童のみ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0才児	2	2	2	2	3	2	4	6	6	7	8	7	51
1才児	8	9	7	7	6	6	5	3	3	3	4	4	65
2才児	3	3	4	4	5	6	5	6	7	6	6	7	62
3才児	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	10
5才児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置児合計	13	15	14	14	15	15	15	16	17	17	19	18	188

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一時保護	10	9	7	7	5	10	9	9	8	4	2	7	87
ショート(含里子)	1	1	0	0	2	0	0	2	3	1	1	0	11

〈結果と考察〉

今年度は前年度に比べて、一時保護依頼が2倍近くになり、特に乳児の依頼が増加していた。施設内でのコロナ感染症流行や、乳児の部屋の定員で受け入れできないこともあり、ニーズに対して十分に対応できなかった。また、一時保護児の大半が2か月未満で退所している。一時保護から措置入所に切り替わった児童は11名で、最初から措置での入所は0名だった。

② 職員構成（年度末時点、上段に実数、下段に最低基準を記入）

職種	施設長	児童指導員 看護師 保育士	事務	家庭支援専門 相談員	個別対応職員	栄養士	調理員等	嘱託医	職員 心理療法担当	相談員 里親支援専門	指導員特別 加算	入所児処遇特別 加算	小規模グループ ケア加算	その他	合計
実数	1	25	1	2	1	1	4	1	1	1	1	2	8	3	52
定数	1	22	1	1	1	1	4	1	0	0	0	0	0	0	32

〈結果と考察〉

- ・より手厚い養育を実施するため、非常勤職員、パート職員を採用した。
- ・夜勤での負担軽減を目的に、学生等の夜勤バイトを採用し、夜勤を職員3名、バイト1名の4人体制とした。

3. 園児の処遇実績

イ) 健康管理

定期健康診断	測定・検査など
嘱託小児科医による健康診断を年2回実施。 母子保健法に基づく健診 (東保健センター) 4カ月、一歳半、三歳半 (嘱託医) 後期	身体測定：0歳月2回、1歳以上月1回実施。(特例あり) 予防接種：嘱託医の協力のもと、公費負担の無い種類も含め 月齢に応じ計画的に実施。BCGも2022年9月から 嘱託医で接種している。

ロ) 栄養管理（食事・おやつ）の取組み

- ・大阪いずみ市民生協から安全安心な食材の購入を心掛けている。
- ・おやつは、手作りを重視して、季節感のあるものを提供している。
- ・栄養士のアレルギー外来付添等、より生活現場との連携を深めている。
- ・コロナ禍により、厨房職員が食育としてのホームクッキングを実施できなかった。
- ・近隣の方より、野菜や果物などの寄贈があり、食事として提供している。

《離乳食》

- ・離乳食は個別のトレーで、名札を付けて提供している。
- ・ミルク量と離乳食の進め方を新たに作成し、ホーム職員と知識、情報を共有しながら進めた。
- ・離乳食の進み方は個人差が大きいので、個々に離乳食進行表（予定）を作成している。
- ・魚、豆腐、卵等の提供の初めにはアレルギーの起因となることも多いので、特に卵や小麦に関しては、提供から48時間の体調スコアリングを行い、問題がなければ次の段階へ進める連絡体制をとっている。
- ・厨房職員は離乳食の食べ方や大きさ、固さ、粘度などを確認出来るようにホームに入り、喫食状態を確認している。

《アレルギー対応》

- ・アレルギー除去食では、献立に除去食品をマーカーでチェックした専用の献立表と写真入りの個人票を作成。個人票と一緒に食事を提供し、照らし合わせて職員に伝えている。また、除去食用食器には名札を付けている。

《病児への対応》

- ・子どもの体調不良時は、体調に合わせて、病児食事（おじや、うどん、消化に良い食事）を提供している。
- ・感染症が蔓延した際は、献立の変更を行い、十分な栄養の確保を目指した。

《備蓄》

- ・災害時における安全な乳幼児の栄養摂取の観点から、備蓄食材の見直しを行った。
- ・食材ロスを減らす観点から、備蓄食材をローリングストックに切り替えた。

ハ) 年間行事

<p><行事の取り組み方></p> <p>ガーデンエルは6名の小規模グループケア(5ホーム)であり、一般の入所施設であるような運動会や遠足等全体行事を実施していない。ホーム単位による、家庭的な日々の取り組みに努めている。</p> <p>秋にはホームごとで、半日の外出を実施した。</p> <p>コロナ禍の影響で、地域のお祭りが中止になっていることもあり、施設内で夏祭りを実施した。</p> <p>誕生日などの記念日にボランティアの協力を得て、記念写真を残す取り組みを2020年から始めていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、今年度も実施できなかった。</p>
<p><結果と考察></p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行により、外出することが難しかったが、感染者数が減少した時期に、商店街に行き、少しでも社会経験ができる様にした。また、個別担当者による1対1で過ごす時間を工夫した。</p> <p>マナ館(親子訓練棟)を利用し、担当職員と二人でゆっくりと過ごすなど、子どもの年齢、状況に合わせて実施した。</p>

ニ) 安全管理

火災・地震	火災、及び地震から火災の想定で、毎月、避難訓練を実施。全体消防は消防署の協力をあおいだ。
救急救命	消防署の協力のもと、AEDによる救命訓練(職員)を実施。
防犯	不審者対応訓練は警察署協力の元、11月18日に実施。
衛生	感染症予防のための手指消毒の徹底、日々の消毒の見直しを行った。

ホ) 賠償保険等の加入状況(利用者対象)

保険種別	会社・団体名	補償内容(金額)
施設賠償責任保険	共栄火災海上保険(株)	対人2億円

4. 職員処遇の実績

イ) 職員の健康管理

- ・定期健康診断 年2回、検診内容(胸部X線、血圧、尿、心電図、問診他)
- ・検便 栄養士 年24回、調理員 年24回、保育士・指導員・看護師 年12回
- ・インフルエンザ予防接種

ロ) 労務管理

- ・給与退職金規定の変更(処遇改善手当・特別勤務手当)
- ・育児・介護休業に関する規程の変更
- ・4月より処遇改善手当を新たに給与で支給。
- ・衛生推進者を選任した。

ハ) 職員会議(高齢除く)

内容	実施回数(開催時間)
主任会	適時
ユニットリーダー会議	1カ月1回 13-16時
エル会議(職員会議)	1カ月1回 13-14時30分
危機管理委員会(防災、防犯、訓練の実施等に関して)	1カ月1回 13-14時
保健衛生会議(保健衛生、医療面全般)	1カ月1回 13-14時
共有会議(ケース情報の共有、不足情報の確認)	1カ月1回 14-15時
各ホーム会議(子どものこと、ホーム全般について)	1カ月1回 13-15時
ごちそう会議(食事おやつ、栄養面全般)	1カ月1回 13-14時

ケース会議 (支援計画作成を含む)	随時
子どものための委員会 (支援上の課題共有、解決)	1 か月 1回 11-12 時
エルロイ里親支援会議 (里親支援機関 B 型の運営に関して)	1 か月 1回 午前で 1 時間

* 運営の安定に伴い、ファミリーホーム ハンナの運営会議を月 1 回から随時で開催。

二) 研修実績 (イエス団含む)

No.	研修名	主催者	研修内容	開催年月日	参加人数 (職種毎)
1	サービスマナー (新人)	大阪府社会福祉協議会	社会人、組織人としての心構え	4/22、26	3 (保育士 3)
2	キャリアパス対応生涯研修	大阪府社会福祉協議会	福祉職員の心構え、キャリアを考える	5/11、24、31	1 (保育士)
3	児童施設課程基礎 I	大阪府社会福祉協議会	児童福祉の現状、施設職員としてのあり方	5/19、20	1 (保育士)
4	スーパーバイザー養成基礎講座	大阪府社会福祉協議会	やりがいをもって働き続けるために対人援助の実践力をともに育む	5/2 6/23	2 (保育士 2)
5	愛着障害の理解と支援の基本	NPO 法人チャイボラ	支援の基本	6/1	1 (保育士)
6	アンガーマネジメント	NPO 法人チャイボラ	マインドフルネスをベースにした実践方法を学ぶことで、イライラによる生産性やモチベーションの低下を防ぎ、職場だけではなく家庭でも利用できるスキルを習得していく	6/8	1 (保育士)
7	イエス団ブラッシュアップ	イエス団	今の自分を見つめ、これからの課題を探る。現場での体験を出し合い、仲間と共有する。「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める。	6/10 6/11	1 (保育士)
8	乳幼児期からはじめる「性教育」	大阪府社会福祉協議会	子どもに相談してもらえる大人になるために私たちが今学ぶべきこと	6/13	1 (看護師)
9	近畿乳児院研修会	近畿乳児福祉協議会	ともに歩もう。幼い子どもたちの笑顔のために乳児院の目指すべきものは	6/23	3 (施設長 保育士 1 心理士 1)
10	乳児院職員指導者研修	西日本子ども研修センターあかし	乳児院における子どもの育ちの支援と家庭支援	6/29-7/1	1 (保育士)
11	事故防止研修会	日本赤十字大阪支部	第一部 事故防止と安全対策	7/1-7/15	1 (保育士)
12	事故防止研修会	日本赤十字大阪支部	第二部 乳幼児の一次救命処置	7/5	1 (保育士)
13	乳児院合同アウトリーチ研修	チャイルドリソースセンター1	安心の輪 子育てプログラム	7/19.8/30 .9/27.10/ 25.11/22. 12/20	2 保育士
14	全国乳児院研修会	全国乳児福祉協議会	乳児院職員に必要とされる専門的な養育・支援に関する知識や技術を学ぶ	7/25	2 施設長 保育士
15	日本遊戯療法学会	日本遊戯療法	遊戯療法はなぜ効くのか～その治癒機転を探す～	7/16、17	1 (心理士)
16	子どもが主体性をもって「遊び込む」ための工夫	フレーベル館	子どもの主体性を発揮するために	7/1-7/31	2 (保育士 2)
17	食物アレルギーの基礎知識と栄養指導のポイント	大阪府社会福祉協議会	食物アレルギーの基礎知識と栄養指導のポイント	8/2	1 (栄養士)
18	子どもの生きる力を引き出す体遊び	フレーベル館	子どもの生きる力を引き出す体遊び	8/3	2 (保育士 2)
19	子どもの遊びを広げるしかけ	フレーベル館	子どもの遊びを広げるしかけ	8/9	1 (保育士)
20	子どもと遊び製作アイデア	フレーベル館	子どもと遊び製作アイデア	8/10	1 (保育士)

21	「安心の輪」ファシリテーター養成研修	安藤智子	ファシリテーター養成講座	8/12-8/15	1 (心理士)
22	0.1.2 歳児の育ちを支える環境構成の工夫	フレーバル館	0.1.2 歳児の育ちを支える環境構成の工夫	8/24	1 (保育士)
23	第71回全国乳児院協議会	全国乳児福祉協議会	『乳幼児総合支援センター』の実現に向けた課題と展望 ～施策動向をふまえて全乳協そして乳児院がめざすべき方向とは～	10/6、7	2 (施設長、 里親支援専門相談員)
24	個人情報保護研修	大阪府社会福祉協議会	個人情報保護法の正しい理解のために	11/24 12/7	2 (施設長 家庭支援専門相談員)
25	人権研修	大阪府社会福祉協議会		11/1- 11/21	1 (保育士)
26	食物アレルギー対応に関する取り組みについて	厚生労働省	取り組み事例	11/16- 12/15	5 (栄養士1 調理員4)
27	近畿乳児福祉協議会食別研修会 栄養士・調理師部会	近畿乳児福祉協議会	乳児院の誤嚥による事故が多数報告されている。口腔機能の発達について学び安全でおいしく楽しい食事の提供に活かしていきたい	12/3	1 (調理員)
28	社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	社会福祉法人全国社会福祉協議会	施設長に求められる役割等について研修し専門性の向上を図ることを目的とする	12/5	1 (施設長)
29	調理員研修会	東大阪市集団給食研究会	幼児の嘔むのが苦手、お口ぼかんへの給食・保育からのアプローチ	2/9	2 調理員2
30	MAN90 福祉経営セミナー	MAN	法人運営の在り方、現場トラブル実例と対処法	3/1	1 (事務員)
結果と考察	コロナウィルスの感染状況に応じて、オンラインだけでなく、参集型の研修も実施されるようになった。研修と施設内でのコロナ感染症流行が重なり、急遽キャンセルする研修もあった。				

ホ) 福利厚生<退職共済制度(機構・府県・市)、福利厚生制度等>

- ・社会福祉施設職員等退職手当共済制度(福祉医療機構)
- ・大阪民間社会福祉事業従事者共済会

5. 子育て支援・地域との交流の報告

- ・リサイクルや清掃委託で、近隣の障害者施設と連携している。
- ・東大阪市のショートステイ事業で、子育て支援として、定期的な利用も含めて地域の子どもを受け入れている。
- ・里親支援専門相談員を中心に、地域の里親会を支援している。また、地域の商店街の一角を借りて、地域に向けて里親広報活動を、東大阪市役所や八尾アリオでも緊急事態等の制限がない限り、月に1回実施した。
- ・例年、サマーボランティア、抱っこボランティア等々様々なボランティアを受け入れているが、2022年度はイエローステージの間のみ、ボランティアの受け入れを行った。
- ・コロナ禍の為、オンラインではあったが、東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に参加することができた。

6. 施設・設備の整備の実績(項目、金額、実施月等、10万円以上記載)

整備の名称	金額	勘定科目	財源	実施月
洗濯機	100,320	器具及び備品	措置費/事業費	6月
さくら トイレ改修	363,000	修繕費	措置費/事業費	10月
床修繕	1,738,000	修繕費	措置費/事業費	9月
マナ館 プロパンガス改修工事	319,000	建物取得	措置費/事業費	9月

エアコン(子育て支援室・セラピー室)	230,450	器具及び備品	措置費/事業費	10月
エアコン(たんぽぽ和室)	134,200	器具及び備品	措置費/事業費	10月
ナビサーバー機器入替	120,901	器具及び備品	措置費/事業費	3月
感知器入替	1,232,000	修繕費	措置費/事業費	3月

7. 会計決算の状況

- ・コロナ禍における定員設定の特例を受けて、暫定定員 29 名設定で運営ができ、また、入所児童が前年度より増加したことに伴い事業費収入が増加したため、22,000,000 円を人件費積立金として、20,000,000 円を施設設備整備としてその他の特定積立金に積み立てができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止事業関連の補助金の交付を受け、感染拡大防止のための備品購入と職員への手当を支給した。

8. その他

- ・特になし。